



帰国生の学校選び A to Z

●第6回●

受験だけではない、入学後の対策が重要！

帰国生受け入れ校では、帰国生に対する配慮として、英語力を重視する入試を行ったり、入試科目から社会や理科、国語の古典分野などを外したりしています。現地校通学の場合は日本語での学習時間が圧倒的に少ないので、このような仕組みはありがたいことです。ただし、英語力を重視する学校では英検準1級やTOEFL iBTで79以上のスコアを要求するとか、入試科目は少なくとも入試問題は国内生入試と同一というように、決してハードルは低くはありませんから、受験対策にはかなりの時間と努力を要するでしょう。また、入試では必要なかった科目も他の生徒と同様に履修しなければなりません。その際の言語は日本語です。したがって、受験対策以外の学習をおろそかにしていると、入学後に大変苦労することになります。

そのための対策として、日本の教科書で国語、数学（算数）、理科、社会の学習を万遍なく行うことが必要です。つまり、補習校での学習が大切なのです。補習校でも学べない科目については、教科書にて自学自習するだけでもよいでしょう。学習塾での学習は問題集が中心ですが、教科書に目を通すことも大切です。教科書には各学年に応じた知識や視点、思考力を養うための基礎事項が盛り込まれており、帰国後の学校の授業に影響するからです。

帰国時の日本語力や学力はそれぞれ異なっています。どうしても授業についていけない場合には、授業の補習や日本語力向上のためのサポートを行う学校はありがたい存在です。帰国生受け入れ校には、入試では配慮するが、入学後は全く国内生と同じ扱いという学校も少なくはありません。無理なく日本の学校に適應するために、入学後のサポートのある学校を選択することも学校選びのポイントの一つです。受験情報誌や各校のウェブサイトや入学案内で確認しましょう。

執筆者：丹羽 筆人

(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140